

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	PBPMに基づく抗がん薬の治療管理能力を醸成する実務実習				
研究組織	代表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	賀川 義之
	研究分担者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	伊藤 邦彦
		所属・職名	薬学部・准教授	氏名	宮寄 靖則
		所属・職名	薬学部・准教授	氏名	井上 和幸
		所属・職名	薬学部・講師	氏名	内野 智信
		所属・職名	薬学部・講師	氏名	大澤 隆志
		所属・職名	薬学部・講師	氏名	辻 大樹
		所属・職名	薬学部・助教	氏名	谷澤 康玄
	発表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	賀川 義之

講演題目	PBPMに基づく抗がん薬の治療管理能力を醸成する実務実習
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【目的】薬剤師養成を目的とする薬学教育6年制が開始されて17年が経過した。本学では病院実務実習開始時より専任教員が静岡県立総合病院を拠点に実習指導を行う米国の Pharm. D. 養成型の病院実務実習を行っており、教育シンポジウムに招聘されるなど学外的に高い評価を得ている。さて、米国では Pharm. D. による薬剤師外来が普及し、薬剤師が医師と契約して処方行為を行うなど、薬物治療の主體的な役割を担う Collaborative Drug Therapy Management (CDTM) が普及している。日本でも CDTM に匹敵する薬剤師業務を模索しており、現行法制化で実施可能な薬物治療管理 (Protocol Based Pharmacotherapy Management; PBPM) として全国的に普及しつつある。そこで、令和5年度は抗がん薬を投与される患者を対象に PBPM 体験実習を企画し、PBPM 実習を介して薬学生の基礎的な処方設計・提案能力の醸成を図ることを目的とした。</p> <p>【成果及び今後の展望】静岡県立総合病院の PBPM は、「抗がん薬投与開始患者における B 型肝炎検査の実施と確認」作業に基づいて実施しているため、薬剤師外来、がん化学療法、病棟実習で抗がん剤の服薬指導を実施する際に PBPM の具体的内容を実習生に説明した。すなわち、実際に電子カルテ端末で B 型肝炎検査がなされているか否かを確認し、その際に指導薬剤師・教員から PBPM に対する説明を受け、検査がオーダーされていない場合、薬剤師が代行で入力している様子を実習生が体験した。また、B 型肝炎が再燃化しているか否かについても服薬指導前の確認行為を現場で体験した。さらに、経口抗腫瘍分子標的薬の副作用防止指導と副作用確認に関して、シスプラチン等の腎排泄型抗がん薬の腎機能に応じた減量提案や、制吐薬適正使用ガイドラインに従った制吐療法の処方提案を医師への疑義照会行為等を介して体験した。加えて薬剤師による処方代行入力について、担当薬剤師より実習生に概要を説明し、代行入力及び処方設計に必要な知識や要点の理解に努めた。</p> <p>今後、さらに PBPM 業務が深化することが想定されるので、実習生が臨床現場で体験しながら、PBPM 業務の重要性や要点を学ぶ機会を設定し、病院実務実習の質を向上させていきたい。</p>